

第1期 小郡寺子屋「志学舎」報告書【第9講座】

開催日 2022年10月8日（土）

● 時 間 9:30～16:30

● 場 所 小郡市生涯学習センター（小郡市大板井）

● 参加者

■第1期生14名（欠席：2名）

■木村 貴志 塾長 ／森 就子（事務局）／井上 和樹（事務局）／西山 茂代（事務局）



● 内 容 第3回経営者講話

9:30～10:50 少年教育10原則朗唱・座学・スピーチコンテストに向けて

11:00～12:00 第3回経営者講話 株式会社田中三次郎商店 代表取締役社長 田中 智一郎 様

12:00～13:00 昼食（お弁当）

13:00～14:25 経営者講話振り返り、第1回スピーチコンテストに向けて

14:35～16:00 スピーチの練習

16:10～16:30 本日の振り返り



■少年教育10原則朗唱

<塾長より>

少年教育10原則を身につけることが、皆さんが志学舎に入塾した意味なので、そのことを意識すること。

<入塾した感想>

・書く力が身についてきたかなと思う。

⇒ちゃんとやっていたらすごく伸びる。一生使える力となる。

・普段の生活の中で、自分で考えて行動すること（具体的には本を読むことが増えたことと、学級の中でできることを考えるようになった）が増えた。

⇒自分で考えて行動することは大事。能動的に動く、取りに行く姿勢は大事にしよう。

■座学

○新聞記事「体感物価、低所得層1.5倍」（2022年9月20日付 日本経済新聞）

・ウクライナ危機によるエネルギー不安による物価高 ⇒ 各国は国際協調の再構築を試されている

・デモが広がるイタリアでは、低所得層のインフレ率が購買力が高い層を大きく上回った。

・今回の世界的インフレは、途上国を苦しめるだけでなく、低所得層を苦しめ、政治の迷走を招く恐れ。

⇒スリランカの政権崩壊、英国・イタリアの首相辞任、イタリア議会選での極右政党の躍進 など

<塾長より>

・日本でも円安となっており、日本とアメリカの物価差・賃金差は数倍になっている。このような中生き残っていくためには麻生会長がおっしゃっていた「3つの力」が大事（特に語学力）。

これからどうせしなくてはならないものなので、努力は早くからしたほうがいい。皆さんは今から努力すれば十分に身に付けることができる。

・「産業を変革し、スキルを磨き、生産性を高める。そうすれば賃金がインフレを上回る」

（シンガポールのリー・シェンロン首相の談話より）

○新聞記事「安藤忠雄×山極寿一 新時代を生きる 新春対談」（2022年1月1日付 日本経済新聞）

- ・いろいろな問題を地球規模で考えていけないといけない時だが、大国が自国主義に傾いている。
- ・自分たちの食べるものは自分たちで生産してから輸出作物を作るというようなプロセスでないと豊かになりようがない。
- ・地球の生態系を考え直し、それを壊さないように人間の生産と消費のネットワークを作り上げる必要がある。

⇒解決するには「地球人」の意識が必要。

- ・日本はアジアのなかでも停滞している。それはしっかりとしたビジョンがないから。自分たちの目指すべき未来はどこにあるのかを原点から考え直さないと、経済も何も先は見えない。
- ・世界で活躍する若い人を育てるには、命あるものと付き合わなければならないし、その体験は五感でリアルな世界に向き合って得たものでなければならない。
- ・これからの世界を支えるべき、信念をもって生きる、責任ある人間を育てるには、子供のときに子どもをする（＝「実体験」をする）必要性を感じる。
- ・未来を担う子供、次世代を育てるには、社会全体がもっと本気になって、家庭や学校、地域行政といった垣根を越えて、教育環境づくりに取り組まないといけない。

<塾生感想>

- ・世界は大変なことになっており、いろいろな大人たちが同じことを言っているから、目標に向かって自分を直していかないといけないと感じた。
- ・体験することの大切さを感じた。（本があることが幸せであること）
- ・子どもの本の森を大阪市に寄贈するという行動力がすごいと思った。

<塾長より>

- ・その対談の内容こそ、志学舎を設立した意味と同じ。
- ・社会で何が起きているのかを、掴んでほしい。

○『人生が変わる習慣』

- ・よいセルフイメージを持つ。
- ・犠牲を払う。（時間と努力と忍耐を投資する）
- ・変えることができるなら、変えるための行動を起こす。（変えることができないことには愚痴を言わない）
- ・最大の勝利は自分の怠け心に打ち勝つこと。

■経営者講話 株式会社田中三次郎商店 代表取締役社長 田中 智一郎 様

○「価値をつくる」人になろう

①田中三次郎商店の歴史

（江戸時代：創業時）水力を動力として、小麦の行商を行っていた。

（令和時代：現代） AI、機械学習を使って、個別認識・追跡するハードウェア等の開発・製造及びそれらを使っての調査

※かなり違うことを行っている。

新しいことを行う場合は、昔のことを想像・理解した上で実施する必要がある。

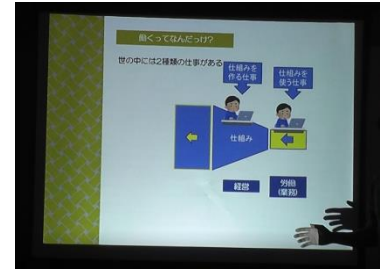
②「働く」って何？

- ・「働く」とは、需要（ニーズ）に応じて、価値を生み出し、適切な対価（報酬）をもらうこと。
- ・ニーズ + 設備 ⇒ 仕組み（仕組みとは、入力して価値を大きくする装置）
- ・仕事には、入力されるもの（業務）と仕組み自体を作るもの（経営）の2種類がある。



☆仕組みの大原則

- I. 仕組みを利用する仕事（業務）は代替可能
- II. 仕組みを利用する仕事（業務）は買い叩かれる。
- III. 仕組みが作り出す価値は、時間とともに小さくなる。

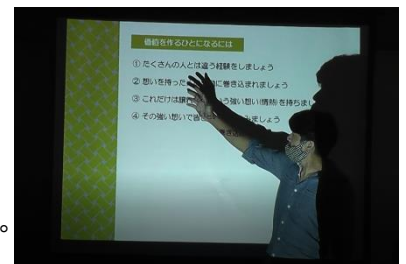


③価値をつくる150年

- ・創業時～終戦後：小麦の行商
- ・終戦後～昭和前期：漁業に関する仕事
- ・昭和後期～平成：自然界の生物を保全する仕事
→実体験により、川の問題に気づく。アメリカでのインターネット・プログラムの経験
- ・令和：水中カメラを作って、AIによる解析、機械学習による解析 ⇒ いろいろなところの調査・研究
→森・川・海はめちゃめちゃつながっていることに気づく。

④価値をつくる人になるためには

- I. たくさんの経験をする。（人とは違った経験）
- II. 想いを持った人の行動に巻き込まれる。
- III. これだけは譲れないという強い想い（情熱）を持つ。
- IV. その強い想いで、皆さんを巻き込む。 ⇒ 仕組みを作ることになる。



【質疑応答・感想】



Q1. 平成のときにパソコンをやっていたとのことですが、そのことで今役に立っていることは何ですか？

A1. 作れるものの想像がつくこと。（自分ができると思うものは、実際に世に出ることになる。）

Q2. 今やっている仕事とかで、新しい技術が入ってきたらこう変わるだろうなというものはありますか？

A2. たくさんある。例えば今はドローンは30分～1時間しか飛ばせないが、1日中飛ばせる容量のバッテリーが出てきたらやれることが広がる。技術革新で仕事は変わっていくと思う。

Q3. インターネットの発達により発生するデジタルデバイト（情報の正確性や情報量の格差）についてどう思いますか？

A3. 接種証明やドローンの登録申請などもすべてスマホによることが大前提になっている。使えない人たちを切り捨てていることになり、残酷ではあるが、これは避けられないだろうと思う。そのような時代に突入してしまったんだと思う。

Q4. 水中だけではなくて、他のところを調べられるカメラを作っていますか？

A4. 自分が使いたいものを作るので、それは水中だけでなく、それ以外の用途で使われることが多いと思う。

<塾生感想>

・小さい縁をどんどんつないでいって事業が大きくなっていって、小さい縁を大事にしているすごいなと思った。

・カエルが数日で600mや700mも移動できることがすごいと思った。

・150年も続いていてすごいと思ったが、その裏には事業内容を更新していつまで続いていると思った。

・機械いじりや魚にいて、カメラやドローンなどの趣味がころころ変わってすごいと思いました。



■経営者講話振り返り、第1回スピーチコンテストに向けて

○経営者講話の振り返り、ロジックツリー作成・レポート作成

<塾長より>

- ・熱い想い、好き = 「志」ということが経営者の話から感じることはできたのではないかな。

○第1回スピーチコンテストに向けて

- ・スピーチコンテストの順番決め
- ・用紙に感謝の対象・思いをできるだけたくさん書く

<塾長より>感謝する視点を持っていることが大切

- ・情報カードに骨格（フレーム）をまとめる → カードを基に3分間しゃべってみる練習

<塾長より>

- ・原稿を書いて読むのがスピーチではない。
- ・カードに書いている表現で伝わるのかを確認する。
- ・エピソードなど、感謝が伝わるような話が必要。
- ・カードにはポイントだけを書くように。
- ・いかに原稿から離れてしゃべることができるか。（原稿は捨てること。）



○映像資料（ザッカーバーグ氏の大学での講演）

<塾長より>

- ・表情、アイコンタクト、間の取り方などのデリバリー能力を学んでほしい。
- ・ザッカーバーグは紙を読んでいない。紙を読むとスピーチの内容が死んでしまう。
- ・ザッカーバーグのスピーチには強い信念があることが感じられると思う。

⇒場の空気感、スピーチにある想いを分かち合うことが大事

○カードに書く → ペアで練習 → 内容の見直し → ペアで練習 を繰り返し実施

<塾長より>

- ・感情を再現するためには、感情表現が大事。
- ・身近なことは具体的に語ること。
- ・起立したまま、腕を後ろに組んだ状態で話さないように。
- ・相手の目を見てスピーチすること。



○『できる人とできない人の小さな違い』（スピーチコンテストに向けて）

- ・自分がうまくいっているところを常にイメージする
- ・人生のある分野で恐怖心を克服して行動を起こすと、他の分野での自信がわいてくるので、恐怖心を持ちながら行動を起こして前進する

<塾生の感想>

- ・書く力は身につけてきたが、まとめる力がまだまだだと感じた。
- ・自分から取りに行く、普段も将来を考えて行動していることなどをレポートに書きたい
- ・ポジティブに考えるとうまくいくと分かった。
- ・スピーチ練習では、アイコンタクトとかをしていきたい。
- ・10原則のうそ、ごまかしをしないが難しく、一番解決しないといけないと思う。
- ・自分も自分の怠け心に打ち勝とうと思う。
- ・スピーチがうまくならないのは、自分で自分を制限しているからということに気づいた。